

平成30年6月25日

北陸電力株式会社  
志賀原子力発電所長 殿

志賀原子力規制事務所  
統括原子力運転検査官  
野中 則彦

### 安全文化・組織風土劣化防止に係る取り組みの総合評価について（指導）

平成29年4月1日から平成30年3月31日に行われた、志賀原子力発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。取り組み要請事項については、確実に実行されるよう求めます。

### 記

#### （総合所見）

安全文化・組織風土劣化防止に係る取り組み状況については、今年度の活動計画通りに発電所全体として「計画に基づいた取り組みが行われ、改善傾向がみられる。」と評価する。

安全文化・組織風土の劣化兆候については、安全文化の「コンプライアンス」及び「常に問いかける姿勢」といった要素について改善の余地があることから「更に傾向を見るため継続した監視を必要とする。」と評価する。

取り組み要請事項を踏まえて、PDCAを廻し、なお一層の安全文化の醸成に努めて頂きたい。

#### （取り組み要請事項）

#### 【コンプライアンス】

事業者自らが定めたルールを逸脱した事象が確認されたことから、発電所員及び作業関係者等に対し、確実にルール遵守がなされるよう努めて頂きたい。

【常に問いかける姿勢】

疑問等が生じた際は、一旦立ち止まって相談・再確認する等、慎重な意思決定を行うよう努めて頂きたい。

(奨揚がふさわしい取り組み)

1号機固定子冷却水ポンプ確認運転前のミーティングにおいて、若手運転員から操作手順、注意事項等を主体的に発言させ、上級管理者は若手運転員の作業に対する理解度を把握するとともに的確なアドバイスを実施していることを確認した。

このことは作業に対して「良好なコミュニケーション」が定着していると評価する。

以上